中国海軍パイロット訓練センターの最新状況

漢和防務評論 20141102 (抄訳)

阿部信行

（訳者コメント）

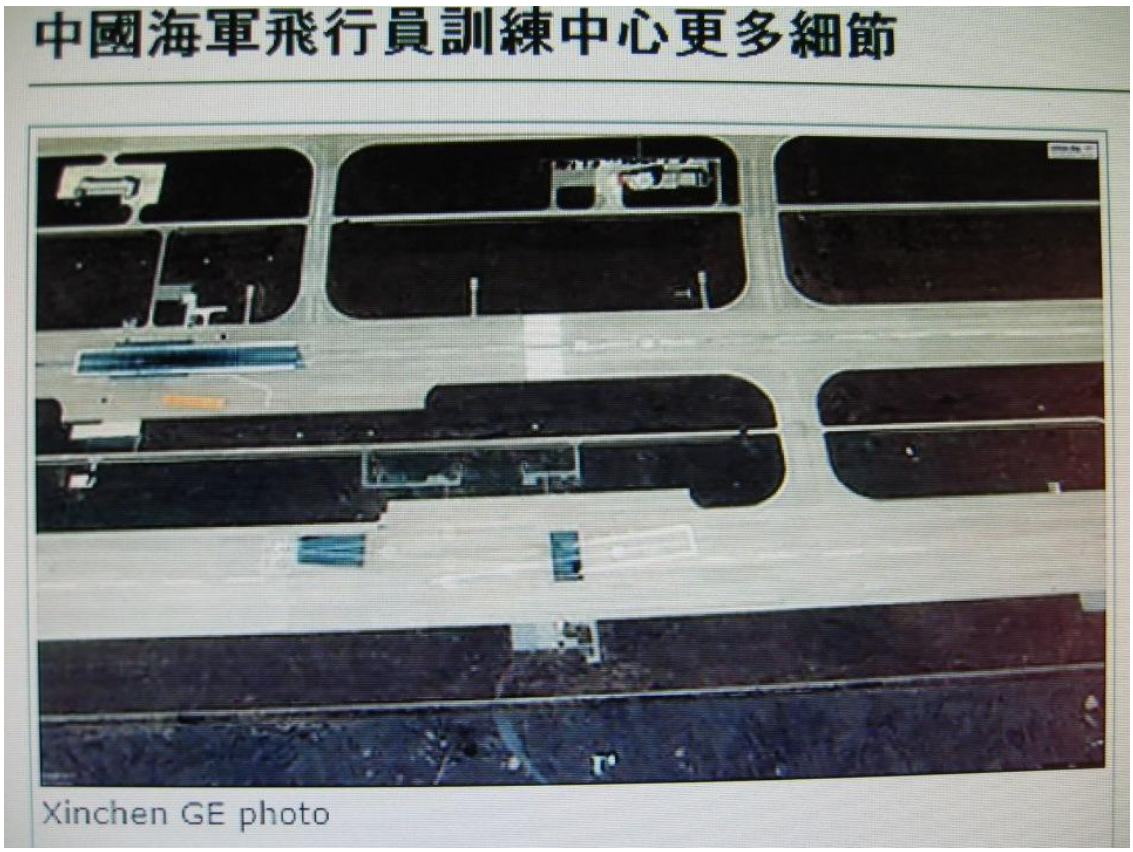
中国海軍の空母部隊建設は、空母船体の建造とともに空母パイロットの養成も軌道に乗せているようです。漢和防務評論誌は、空母パイロット訓練センターの衛星写真を分析し、中国海軍は J-15 艦載機の戦力化、空母パイロットの養成を急いでいることを指摘しています。 中国遼寧省興城市にある訓練センターの写真を添付します。

KDR ニュース香港特電：

最新の衛星写真によって、中国遼寧省興城市にある中国海軍パイロット訓練センターの最新状況が分かった。2 個のスキージャンプ台のほか、アレスティングワイヤ装置が 2 個あった。これは、世界で最も大きな海軍パイロット訓練センターであり、2 機の J-15 艦載戦闘機が同時に離着陸できることを意味する。しかし蒸気カタパルトが見当たらず、2013 年末までに蒸気カタパルトの試験が行われていないことが分かった。電磁カタパルトについては言うまでもない。訓練用のスキージャンプ台は、ウクライナの NITKA に比べ整っており、滑走路上に空母”遼寧”を模したラインが描かれている。これは 3 個の離着陸スポットで模擬離陸が出来ることを意味する。一つのジャンプ台は空母のスキージャンプ台を模して訓練するためであり、別のジャンプ台は空母と同じラインが描かれていなかったことから通常の離着陸訓練に使用するものと思われる。訓練センターの内部には、直径 16 メートルのレドームが見られ、J-15 戦闘機の航法支援、航空管制用レーダーがあるものと見られる。生活設備は相当整っており、如何なる空軍基地に比べても処遇の良さが推測できる。サッカー場が 2 個、バスケットボール及びテニスコートが 12 個ある。

この訓練基地の最新状況を分析すると、中国海軍空母部隊の整備計画が良く分かる。短期間で艦載機 J-15 の戦力化を図るため、2 つの訓練施設（スキージャンプ台）を使って急速練成を行うことである。すなわち最初の空母”遼寧”と 2 艘目の空母のパイロットを同時に訓練する。したがって現在大連の造船所では空母を建造中であり、所要の人員が空母の完成を待っている状況にある。海上試験が完了し、部隊に装備されるのは 8 乃至 10 年後であろう。最初に訓練を行った空母パイロットのグループは、退役時期が近づいているが、他の国家でも訓練方式は同じであり、経験の積み重ねが重要な要素となる。

中国海軍パイロット訓練センター（遼寧省興城市）



以上